



公益財団法人都市活力研究所と一般社団法人うめらくは、共同でトークイベント「キタ再発見の会」「うめらく未来ミッション」を開催します。「キタ再発見の会」は、キタエリアで多くの時間を過ごされる方に、是非キタエリアの豊富な魅力を知っていただき、もっと好きになっていただくきっかけとして開催しています。「うめらく未来ミッション」は実際に地域で活動している方と、地域で活動をしたい人をつなぐ交流の場として定期開催しています。未来にミッション(使命)を感じて活動する方々がつながり合うことにより、地域活性化仲間となり、実践のきっかけとなりますよう、皆様お気軽に立ち寄っていただき、夜のひとときにゲストトークや意見交換を愉しんでいただければ幸いです。皆様のご参加をお待ちしております。

第16回キタ再発見の会×うめらく未来ミッション (vol.24)

□テーマ 『梅田・曽根崎の今昔物語から見るキタの魅力』
 □コーディネーター：一般社団法人うめらく 代表 山田摩利子
 □ゲストスピーカー：つひまふ編集長 浅香保ルイス龍太 様
 □日時 2021年5月20日(木) 18:30-20:00
 □方法 オンライン会議システムZoom ウェビナーによる開催
 今回は、大阪キタは大阪の玄関口。人が出会う、行き交う、すれちがう、ゆえに“物語が生まれる場所”と表現されました。そんな大阪キタエリアの魅力伝道師であるルイスさんに、梅田・曽根崎エリアの今昔物語を紐解きながら、キタの魅力についてお話しいただきます。またターミナル機能をもつ大阪駅前ならではの魅力発信と課題解決に向けての実際の活動を行う『キタ歓楽街環境浄化推進協議会』の活動についてもご紹介いただきます

山田氏：今日のゲストスピーカーはルイスさんです。

ルイス氏：ルイスです。よろしくをお願いします。

山田氏：キタ歓楽街環境浄化推進協議会で活動されているということですが、こちらでは具体的にどんな活動されているのでしょうか。

ルイス氏：この協議会は梅田のまちづくりをする団体ですが、主に防犯に特化した活動をしている団体です。

山田氏：そちらのほうで、ルイスさんはどんなことをされているのですか。

ルイス氏：活動に実際に携わりながらそれぞれの活動の広報をさせていただいており、人を集めなければならぬイベントのときには広く周知したりしています。この協議会が、迷惑駐輪の問題に取り組むというときに難波さんから声を掛けて頂いて、一緒に参加しようということに参加させて頂いています。これは(写真下)その一環で町会運営の駐輪場というのを作ったのです。町会運営の駐輪場というのは全国でもめずらしいと思います。(2021年に、コロナ禍により運営が厳しくなり撤去となりました)ところが壁面に落書きをされてしまったのです。これをどうにかしようということで最初真っ白に塗って消そうという話になったのですが、真っ白に塗って消したらまた落書きのためのキャンパスができてしまうということに気づきました。

山田氏：恰好の餌食になるわけですね。

ルイス氏：さてどうしようかというときに、では絵を描きましょうということになりました。この駐輪場は堂山にあるのですが、堂山には色んな人が暮らしていて、働いている場所なので、色んな人がいますよという絵を書こうじゃないかということで、こういう風にみんなで寄り集まってペンキで絵を描きました。

山田氏：それはどういう風に発信されたのですか。

ルイス氏：Facebook で発信しましたね。

山田氏：その人たちはみんな絵を描くのが得意な、アーティストとかですか。



ルイス氏：いや、ぜんぜん絵心ない人ばかりです。(笑)最初の下絵を描いてくれる人を募ったところ、地域活動に協力して頂いているECC外国語専門学校の保健室の先生が「私、絵を描く」と手を挙げてくれました。それで原画を描いてもらって、それにみんなで色を塗ったという感じです。

山田氏：他にもされている活動を教えてください。

ルイス氏：これは(写真下)さくらねご活動といいまして、北区の歓楽街、梅田曽根崎界限というのは野良猫がすごく多いのです。飲食店がたくさんあるので野良猫の被害をなんとかしたいということで、仕掛けを置いて猫を捕獲して(トラップ)、それを病院に連れて行って、去勢と避妊をして(ニューター)、また元の場所に戻す(リリース)TNR活動というのがあります。会とは関係なくもともとやられていた方がいて、その方と協力してみんなでやろうじゃないかということでやっています。助成金をもらったりする関係で、対象エリアというのを事前に届け出はするのですが、猫というのは、行政区域を関係なしに移動するので、なかなか難しいところなのです。



山田氏：そうですね(笑)。クラウドファンディングもされたんですね。

ルイス氏：大阪市からも助成金を受けられるのですけれども、4~5千円の実費負担はどうしても必要になるので、町会からお金を頂いたり、料飲組合から寄付を頂いたりするのですが、なかなかそれだけでは賄いきれないのでクラウドファンディングをしようということでトライしました。すると目標の200万円を締め切りラスト5分で達成しました。

山田氏：首の皮一枚で繋がったんですね(笑)。また次の活動紹介にいきましょう。

ルイス氏：これは(写真右下)年末に警察と一緒に環境浄化パレードという活動を歓楽街でやります。12月なのでみんなサンタの恰好をしていますね。「違法客引きをやめろ」とシュプレヒコールを挙げていても面白くないし、周りから「お前らがうるさい」と言われるだけなので、では歌にしましょうかということになりました。沖縄民謡で歌を作って、わりとダンスミュージックになっているのです。このあと、北区で区の歌を区役所が作りましたけれども、これのマネです(笑)。



山田氏：どんどんいきます。写真もいっぱいありますので。

ルイス氏：キタ歓楽街環境浄化推進協議会でビル自主規制部会というのを年に2回やっています。ここではビルオーナーさんやビル管理者さんを対象に勉強会をしています。結局、違法客引きであるとか、キャッチセールスであるとか、違法看板というのは全部店子が悪さをするのですけれども、そういう店子を入れないようにしたり、店子をもっと教育して下さいということ、大元のビルオーナーさんに勉強してもらおうということでやっています。時々テーマを変えてやっていて、民法改正であったり、焼肉屋のダクト火災なんかもあったので、ダクト火災についての注意点を説明したりということで、盛りだくさんでやっています。

山田氏：次の活動は私も参加させていただいたことがあります。

ルイス氏：ありがとうございます。これは梅田の街案内エスコートという活動です。梅田というのは観光客が世界中からやってくる場所ですが、“梅田ダンジョン”と言われるぐらいほとんど迷宮のようになっているので、だいたい道に迷っている人が多いです。

山田氏：そうですね。結構外国人の方にエスコートしにいったという記憶があります。英会話の練習になったような、そういう感覚でした。

ルイス氏：どこそこに行きたいと言われたときに、説明をしたり、エスコートするということをしています。防犯活動をする団体ですが、その団体がなぜこうやって観光をやっているのかというと、みんな揃いのピブスを着て街角に立つのですけれども、こういう人間が立つことによって違法客引きとか迷惑駐輪というのがとりあえずその時だけでもなくなるということです。我々が立つことによって一種の防犯活動になっているのです。観光のための活動でもあるけれども、じつは防犯活動だということですね。

山田氏：よく聞くのが、見張られているというのかわかると悪いことができない街だというふうを感じるということですね。

ルイス氏：そうです。防犯活動を逆手に取ってこうやって観光の活動をする、ものすごく喜ばれますね。

山田氏：曾根崎地域とか北野地域とか、そこに関係する方以外でも道行く人が参加したいということであれば参加できる活動ということですね。

ルイス氏：そうです。これは道がわかっている人と外国語ができる人とふたりペアになって説明をしに行ったりしています。

山田氏：結構ホテルの名前などを聞かれたりするのですが、それで勉強になりました。

ルイス氏：ちょっとコロナで止まっていますけれども、収まれば活動を再開したいなと思っております。



ルイス氏：他にも、だいたい月1~2回のペースで夜間警備をやっています。迷惑駐輪の撤去は昼間から夕方6時くらいからやりますので、撤去している風景に出くわすと思うのですけれども、北野・曾根崎界隈というのは昼間の人口と夜の人口がまるっきり入れ替わるので、昼間だけやって安心という訳にはいかず、やっぱり夜もやっていかないとなかなか自転車は減らないのです。関西大学の学生がトラッキング調査をしてくれて、ここに自転車を停めた人がどこに行くのかと跡をつけて調査してくれたのです。調査結果によると、7割がこの周辺の飲食店の従業員です。

山田氏：ビルの一室の中で働いている方とか、飲食店の方とかは、停める所は確かなさそうですね。

ルイス氏：あるのです。夜なんか空いている駐輪場も多いです。結局100円でも200円でもお金がかかるのが嫌だということと、ちょっとでも遠いところは嫌がられます。

山田氏：なるほど。全回の北野エリアの植松会長にもこの会でお話を聞いたのですけれども、その時もやはり自転車のことに関してはとても悩んでおられましたね。

ルイス氏：なかなか特効薬はないので、結局そこに停めないでねという意識づけをしていくしかないですね。

山田氏：QRコードがついたステッカーが自転車に貼ってあるのですけれども、これは何ですか。

ルイス氏：QRコード先は今日現在は存在しないのですが、駐輪場マップです。このステッカーはね、迷惑駐輪したらダメですよというステッカーではなくて、駐輪場に停めないで自転車を盗まれますよというステッカーなのです。

山田氏：啓発活動をされているということですね。

ルイス氏：そうです。

山田氏：違法駐輪がなくなればいいですね。では次にいきますね。

ルイス氏：これは(写真下)新梅田食堂街の道路側で、バスが停まったりするところです。このように落書きがひどかったので、消してほしいという大阪市建設局からの要望があったのでやりましょうということになって、Facebookで呼びかけたら、みんなひと塗りぐらいしかできないぐらいのすごい人が来てしまいました。ほぼアトラクションなのですよ。

山田氏：ルイスさんたちは遊び心というか、そんなことを仕掛けたりするのがお上手なのですね。



ルイス氏：塗ったおかげで減りに落書きをされなくなりました。

山田氏：(参加者のみなさんへ)情報発信のほうはFacebookとWEBページでもされているみたいなので、ぜひそちらもご覧になってください。参加してみたいなというのはウェルカムだということですのでぜひチェックしていただければと思います。

ルイス氏：最初に曾根崎のバックボーンを紹介するところで居住人口が載っていたと思うのですが、曾根崎が308人。そんな人数で地域活動とか、まちづくり、防犯にもできないので、外から曾根崎に通動している人とか、曾根崎でよく遊んでいる人とか、そこに愛着のある人たちに、一緒にまちづくり活動に参加しませんかというかたちで巻き込んでいかないと、活動そのものが成り立ちません。曾根崎も小学校跡地に分譲マンションと、賃貸マンションと、ホテルが入った高層ビルが建ちます。最初はホテルとオール分譲マンションだったのが、東京などではタワーマンションを投資用に買って、実際は住んでないということがあります。そうするとまちづくりができないので半分は賃貸にして実際に居住実態があるマンションにしようとしていますね。

山田氏：今までのところが、活動のご紹介でしたが、次に曾根崎の歴史

のほうにいきたいと思います。

ルイス氏：大阪というのは、もともと水のなかにありました。淀川と大和川から土砂が運ばれてきて、少しずつ陸地が出来ていって、島がいっぱい出来ました。島がたくさんあるのを八十島と言います。島の間を水が流れていって水の流れが早い状態を“なみはや”と言います。



山田氏：こういう写真を見ると興奮しますね。

ルイス氏：昭和37年頃の、当時ではめずらしい空撮の写真です。大和銀行さんが空撮の写真を毎年撮られていて、行内で展示していたものを、銀行を閉めるとなった時に得意先の人にこの写真をあげたそうです。それが回り回って僕のところにきました。

ルイス氏：これは（写真下）お初天神の夏祭りです。

山田氏：北区中から子供が集まったというような話を聞きました。

ルイス氏：そうです。曾根崎は住民の数が少ないと言っていましたけれども、みんなここで生まれても外へ出ていくのですけれども、お祭りの時になったらみんな帰ってきます。なかなか、背景に高層ビルがあって、その下で祭りが行われている写真というのも良いコントラストで面白いなと思います。



山田氏：これは何の写真ですか？

ルイス氏：これは初代大阪駅を造っている時の写真ですね。

山田氏：どこかのントリーハウスみたいな感じの建物ですね。

ルイス氏：明治7年ですが、おしゃれです。文字通り何も無い所に建てたばかりに今やここが中心地になった。

山田氏：こちら（写真右上）は？

ルイス氏：曾根崎なので、今の大阪駅です。

山田氏：こんな絵、描いてあります？

ルイス氏：このレリーフが今も飾ってあるのです。前の大阪駅からあるものを、今の新しくなった大阪駅にそのまま移植して持ってきたのです。

山田氏：私、気づいていなかったのかな？！

ルイス氏：真ん中はお初と徳兵衛かな。左側にカンガルーが飛んでいたりするんですよ。他にも色々な都市が見えたりするでしょ。



山田氏：これは凱旋門とか？

ルイス氏：次の写真に“世界にひらく大阪”と解説があります。“この壁面レリーフは、大阪市とその姉妹都市の風俗・文化を描きオブジェは友好の懸け橋を象徴したものである。”つまり姉妹都市の様子が描かれているレリーフなのです。

山田氏：なるほど。知らなかった。

ルイス氏：ところがサンフランシスコは姉妹都市を解消したということがありまして、この解説のレリーフが取り払われました。おかげで、このレリーフは何のモチーフなのかというのが全くわからない状態になりました。

山田氏：勉強になりました。ありがとうございます。

山田氏：どんどんいきますけどもこれは（写真下）？

ルイス氏：これは大阪北小ですね、その前は曾根崎小学校ですね。

山田氏：ここにさっき仰っていた高層ビルが建ちますよということですね。

ルイス氏：これは明治43年の校舎です。これは大正6年の校舎です。

山田氏：わあ。すごく良い感じですね。

ルイス氏：色々と学校が縮廃合されていって、結局、大阪北小は中之島のいちばん西端までが校区になりました。

山田氏：中之島の子も達もここに通っていたのですね。いつぐらいの話でしょうか。

ルイス氏：昭和30年代ですね。僕がこの間、宮本輝の「流転の海」という全9巻の小説が完結したので全部読んだのですけれども、中之島のいちばん西端から通っている様子が出てきました。大阪のキタの範囲というのはこれが最大範囲かなという感じがします。

山田氏：でももう少しすると、中之島に小中一貫校ができますね。やっとな（これまでの学生たちの）苦労が報われる時代が来ました。

ルイス氏：これはまだ噴水があった頃の泉の広場です。泉の広場の突き当たりにはこのような大阪北小学校の案内表示が出ていました。地域の人と大阪市営地下鉄とがタッグを組んで、こういうこともやっていたのだろうという名残ですね。

山田氏：小学生が地下街を通うというのが、梅田ならではですね。

ルイス氏：遊ぶ所がいっぱいあってまともに帰れないでしょうね。

山田氏：これは、何ですか。

ルイス氏：曾根崎小学校は体力大会かなにかで日本一になったのです。それで天皇陛下に表彰してもらおうということで代表者が皇居まで行って、この盾をいただいて帰ってきました。今でも残っているこの小学校のお宝です。

山田氏：そういえば、他の資料で知ったのですけれども、食育もすごく盛んにされていたとか。

ルイス氏：はい。

山田氏：周りに結構、夜のお仕事をされている方が住まわられていてという話が『つひまぶ』に載っていました。

ルイス氏：よくご存じですね。30~40年ぐらい前から食育をやっている、夜の飲食店をされている方が多かったので、朝お弁当を持たず時間にお弁当ができない。だから昼前にお弁当を持って行って食べさせる。それとね、朝ごはんが食べられない子供がたくさん居たので、子供にお米を持たせて学校の給食室で調理をして朝ごはんを食べさせていたって

